

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	佐々木 宏之			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年

分野

身近な問題を「心理学」の視点から科学的、客観的に分析することにより、人間の認知特性を理解する。

ディプロマポリシーとの関連：①健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。②自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。

目的と研究対象分野

「心理学」の視点から、人間の認知能力とその特性を実験的手法により理解することを目的とする。心理学は、情報、経営のいずれとも関わりの深い領域である。たとえば、使いやすい情報システムを設計するためには人間の基本的な認知特性を理解する必要がある。また、組織の運営には人間の社会場面での振る舞いを理解する必要がある。本研究室ではこうした人間の様々な心や行動のはたらきとそのしくみを科学的、客観的に分析する方法について学ぶ。

卒業研究3、4、卒業論文では、各自が選択した研究テーマについて研究計画書と研究テーマに関連する文献の内容についてまとめ、報告する。それに加えて、卒業研究3では中間発表会、卒業研究4では卒業論文の読み合わせと卒業研究発表会の予行を実施する。毎週の研究成果の報告をとおして、研究室のメンバーと自分自身の研究の内容について議論することにより、実験や調査の方法、データ分析の方法を洗練させるとともに、研究成果をわかりやすく論文や発表の形式で伝える技術を磨く。

研究内容

卒業研究をとおして論理的・批判的な思考能力を養う。

■卒業研究3、4、卒業論文：

①研究計画書の発表（卒業研究3）

卒業研究2の終了時まで作成した研究計画書の内容について発表し、議論する。

研究室のメンバーに対して、自分自身の研究の背景、目的、仮説、方法、予測される結果について、わかりやすく説明する。

発表者以外のメンバーは、発表者の研究計画の問題点を指摘し、問題を解決するための方法を提案する。

②卒業研究のテーマに関連する文献の紹介（卒業研究3）

自分自身の研究テーマに関連する文献を読み、その内容をレジメにまとめ、発表する。

研究室のメンバーに対して、研究の背景、目的、仮説、方法、結果、考察の内容を、わかりやすく説明する。

発表者以外のメンバーは、様々なテーマの研究内容を理解し、問題点を考えることで、心理学に関する知識を深めるとともに、批判的なものの見方を身につける。

②研究の進捗状況についての報告（卒業研究3、卒業研究4）

実験・調査で得られた結果の進捗状況をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。

発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成される。

発表や発表資料の内容について、研究室のメンバーが全員で議論し、よりわかりやすく伝えるための提案をする。

7月：中間発表

1月：卒業研究発表会の予行

③卒業論文の執筆と読み合わせ（卒業研究4、卒業論文）

卒業論文の内容を研究室のメンバーが相互に確認し、コメントをする。

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

成績評価

・卒業研究2：実験計画の発表（20点）、文献発表（20点）、進捗状況の発表（20点）、中間発表の内容（40点）

・卒業研究3：進捗状況の発表（40点）、卒業論文の読み合わせ（20点）、卒業研究発表会の準備への取り組み（40点）

・卒業論文：論文の内容（50点：目的と結果の整合性、テーマの新奇性、研究方法の妥当性、結果の解釈の客観性）、発表の内容（30点：スライドの構成、発表態度、質疑応答）、研究態度（20点）

・課題に対するフィードバックの方法：発表に対する質問やコメントをし、講評をおこなう。

卒業研究活動についての留意事項

特になし。

学習到達目標

自ら問題を設定し、問題を解決するための情報収集能力や実験遂行能力、データの統計的解析能力を養う。さらに、得られた実験成果を論文にまとめ、発表する能力を育成する。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	河原 和好			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
D 分野							
目的と研究対象分野							
河原研究室では主にコンピュータを用いて画像を取り扱う研究を行なっています。							
<p>具体的には、画像処理、コンピュータビジョン、画像作成（コンピュータグラフィクス）、パターン認識（画像認識）などの画像に関する研究や、その応用である Web 作成やロボットに関する分野が研究対象となります。さらに関連分野として、アプリ作成やゲーム作成などのプログラミングや、画像から対象を音声に変更した音声処理・認識や音楽などに関する研究も対象としています。</p> <p>「卒業研究 1～4」では、これらに関する分野から、各自が興味を持った卒業研究テーマを設定し、独自の発想や工夫を取り入れて研究や開発を行います。「卒業論文」では、得られた成果を卒業論文としてまとめ発表します。</p>							
研究内容							
<p>「卒業研究 1～4」および「卒業論文」の内容は以下の通りです。</p> <p>必要に応じて、学外イベントやコンテストなどへの参加を行います。</p> <p>「卒業研究 1」では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング・画像処理・画像作成・Web・ロボット等の分野について基礎知識の学習 ・過去の研究テーマの紹介 ・各自が興味を持った分野に関する調査と発表 ・プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習 ・研究テーマの検討 <p>「卒業研究 2」では、卒業研究のテーマを決定し、各自のテーマについて、調査や制作および発表を行ないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの検討 ・大学祭において研究テーマに関する展示を行うので、その準備 ・4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出） ・研究テーマの決定および発表、研究計画の作成 ・4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出） ・就職に関する情報交換、4年生と意見交換 <p>「卒業研究 3」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行ないます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春休みの研究成果と就活状況の報告 ・研究テーマに関する調査や制作 ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換 ・就職に関する情報交換 ・中間発表会（プレゼンおよびレポート提出） <p>「卒業研究 4」では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの研究成果と就活状況の報告 ・研究テーマに関する調査や制作 ・卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換 ・大学祭における成果の展示・発表 ・研究室内における成果発表会（成果報告の最終締切） ・卒業論文の執筆と添削 ・卒業論文の発表の練習 ・卒業論文データベースへの登録作業の確認 <p>「卒業論文」では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめた論文を執筆します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学祭と成果報告会が卒業研究の成果作成の締切となるので、それ以降は論文を完成させます ・論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となります 							
【毎回予習・復習合わせて 4 時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<p>卒業研究 1：参加態度 (40%)、報告・発表 (30%)、課題 (30%) により評価。</p> <p>卒業研究 2：参加態度 (40%)、報告・発表 (30%)、課題 (30%) により評価。</p> <p>卒業研究 3：参加態度 (40%)、報告・発表 (30%)、課題 (30%) により評価。</p> <p>卒業研究 4：参加態度 (40%)、報告・発表 (30%)、課題 (30%) により評価。</p> <p>卒業論文：論文 (60%) 発表 (40%) により評価。</p> <p>（論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答の的確さによる）</p>							
それぞれの項目についてはその都度講評を行う。							
卒業研究活動についての留意事項							
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングに関する卒業研究を行なう場合は、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい ・画像に関する卒業研究を行なう場合は、関連する授業を受講しておくことが望ましい ・「卒業研究」の配属に関する情報は河原のウェブページに掲載するので確認すること 							
学習到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる（卒業研究 1～4 の参加態度・報告発表・課題により評価） ・問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる（卒業論文および発表により評価） 							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	岸野 清孝			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
C分野、A分野							
目的と研究対象分野							
<p>・自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力を養うことを目的としている。</p> <p>・複雑化・高度化した社会では、個人の経験や感覚だけで企業活動をコントロールすることは不可能となってきた。とくに、経済の国際化、消費者ニーズの多様化、生産技術の革新など急ピッチで変化する経営環境に対処するためには、経営を科学的に分析することにより、経営システムの課題を解決していく必要がある。</p> <p>・経営システムを学ぶことを通じて、時代とともに激しく変化する経営環境を多角的に分析し、問題をスムーズに解決できる基本的能力を培うことを授業目的とする。</p> <p>・研究対象分野は企業の経営システム（経営戦略、マーケティング戦略、生産・流通・物流など）である。</p> <p>・自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。</p>							
研究内容							
<p><卒業論文></p> <p>経営に関する分析手法を応用して、実際の業界・企業・製品・サービスについて分析し、課題や仮説を見つける。</p> <p>経営に関する分析手法により評価・検証を行い、解決策（新しい経営戦略、生産・流通・物流戦略、サービス、ビジネスモデル、コンピュータシステムなどの提案）を考える。</p> <p>具体的な卒業論文テーマ例を以下に示す。</p> <p><業界・企業研究の例></p> <p>①「ワタミ（坐・和民）の顧客アンケート調査による問題点の改善」</p> <p>②「すき屋と吉野家の経営分析ー狂牛病発症時の戦略分析とアンケート調査ー」</p> <p>③「ビザハット新潟寺尾東店の問題点と解決」</p> <p>④「新潟で活躍するスーパー3社の店舗調査・評価による問題点と改善提案」</p> <p>⑤「ホームセンターの経営分析と店舗運営の評価」～コメリとアークランドの比較分析評価～</p> <p>⑥「ドラッグストアの経営分析と店舗運営の調査・評価による提案」</p> <p>⑦「トイレタリー業界における花王とライオンの経営戦略・業績の分析」</p> <p>⑧「100円ショップ各社の戦略展開」～ダイソーがダントツトップの理由～</p> <p>⑨「トヨタの高級化・低価格化戦略」～競合他社との比較による成功要因の考察～</p> <p>⑩「ドコモ・AU・ソフトバンクの経営比較」</p> <p>⑪「日本ゲーム企業の戦略」</p> <p>⑫「家電量販店と町の電気店の経営戦略」</p> <p>⑬「日本映画産業と邦画の現状と問題点」</p> <p>⑭「企業の社会的責任（CSR）への取り組みレベルの評価と分析」</p> <p>⑮「日本プロ野球に対する制度改革の提案」</p> <p>⑯「Jリーグの成績順位に影響を与えている要因分析と順位を上げるための提案」</p> <p><商品研究の例></p> <p>①「化粧水に対する満足度調査と改善提案」</p> <p>②「J-POPのCD売り上げに関連する要因の分析」</p> <p>③「電子書籍に対する端末の適応性に関する評価」</p> <p>④「日本におけるスマートフォン普及のための問題点と改善提案」</p> <p>⑤「インターネット広告は日本でナンバーワンの広告媒体になれるか」</p> <p>⑥「電子マネーの普及に関する評価と普及のための提案」</p> <p>⑦「バイオメトリクス認証を用いた入退室管理の経済性評価」</p> <p><地域研究の例></p> <p>①「新潟市西蒲区岩室における農産物直売所を活用した活性化提案」</p> <p>②「加茂市中心商店街の現状分析と活性化への提案」</p> <p>③「戦国ブームを利用した地域振興の課題と提案」</p> <p>④「フリーマーケットの意義と出店者の意識調査」</p>							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<p><卒業論文></p> <p>卒業論文(成果物)と卒業論文(発表)の合計により評価する。卒業論文(成果物)は、①問題設定の具体性、②論理の一貫性、③解決策の工夫・創造的なアイデア、④検証・評価の説得性、客観性、有用性により評価する(50点)。卒業論文(発表)は、①発表の起床転結の構成、②スライドの表現・解りやすさ、③発表の技術・態度、④質問への回答の的確性により評価する(50点)。成績分布などをポータルにて連絡する。</p>							
卒業研究活動についての留意事項							
<p>①卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないために卒業論文が完成しなくても責任は持たない。</p> <p>②卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えない。</p> <p>③卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないために卒業論文が完成しなくても責任は持たない。</p>							
学習到達目標							
自ら問題を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて記述し発表する能力を育成する。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科			
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	近山 英輔			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
D、B分野							
目的と研究対象分野							
生命は膨大な数の組織化された生体分子が協同的に相互作用し、知的情報処理を行うシステムである。その仕組みには謎の部分がある。その謎に、コンピュータ、ハードウェア開発、実験、理論分析等でアプローチする研究を行うことを中心にしている。キーワード：細胞シミュレーション、専用計算機、核磁気共鳴（NMR）、磁気共鳴イメージング（MRI）、顕微鏡、生物情報科学（バイオインフォマティクス）、システム生物学、脳、ニューラルネットワーク、ロボット、食品科学。							
研究内容							
卒業論文を執筆する。							
成績評価							
卒業論文点（50%）＋発表点（50%）＋成果点（追加点）で評価する。卒業論文点は卒業論文の内容に対応させ、発表点は卒業論文発表会の内容に対応させ、成果点は、原著論文の一部に貢献できる研究成果があった場合 20 点、それが少しあった場合 10 点、それが出つつある場合 5 点、それがない場合 0 点とする。総計で 100 点を超えた場合 100 点とする。 さらに、決められた期限内に決められた手続きと様式で「論文の提出」「発表会での発表」「抄録の登録」を行わないと単位取得できない。120 時間以上の研究記録を記した卒業論文日誌を決められた期限内に提出しないと単位取得できない。							
卒業研究活動についての留意事項							
・進捗を教員に報告して、相談しながら研究を進めることが望ましい。							
学習到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・研究とは何かを説明することができる ・インターネット上や研究室に用意された資料を用いて、自発的に背景知識を勉強することができる ・研究室で用意されたガイドラインに従って、自発的に卒業論文を執筆することができる ・教員と協調・協力しながら自発的に研究に取り組むことができる ・打ち合わせ事項や研究のメモを研究ノートに取ることができる ・教員と協力しながら、研究データの分析と考察ができる ・分析データのグラフをエクセル等で作成することができる ・発表資料をワード、パワーポイントで作成することができる ・自分の研究内容を他人に説明することができる ・自分の研究内容を公の場で発表することができる ・自分の研究発表に対する質問に応答することができる ・他人の研究発表を理解することができる ・他人の研究発表に対し質問することができる ・文献の内容を他人に説明できる。 							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	近藤 進			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
		【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年		
分野							
D分野							
目的と研究対象分野							
情報システムの基盤技術である、エレクトロニクス、通信、光に関係した分野について研究する。テーマを自分で見いだし、論文としてまとめる。内容については必ずしも最先端の技術や研究にこだわらない。有効な使い方など独自の新しい発想・工夫を展開して自主的に問題を解決することを目的とする。							
本研究室では、部品・システムの製作・実験・調査など体を動かす研究が多く、このような方法に興味のある学生を対象とする。通信から・環境・福祉・農業まで広い分野を対象としており、各自の興味に対応したテーマを設定できる。							
研究内容							
卒業研究1 研究するテーマを探索するために、講義および輪講形式で、エレクトロニクス・通信・光に関する基礎的な勉強を行う。また、無線レシーバ、スペクトルアナライザ、分光器、マイコン等、機器の基本的な使用法を修得する。センサー・マイコン・モータのような簡単なシステムを勉強する。さらに、どのようにこれらの技術が実際に使われているかを知るため、工場見学等を行う。							
卒業研究2・卒業研究3 テーマを決め、それぞれの研究テーマを推進する。 研究テーマを推進する中から、問題点を見いだし、どのように問題を解決し、研究を展開するかについて学ぶ。 卒業研究では、進捗状況を発表し、研究内容について問題点・改善点について議論する。また、テーマの内容により輪講形式、小グループ、個別に指導する。 研究に付随する実験については、限られた資源（設備や測定器）をいかにして有効に使うか、研究生独自の発想や工夫を求める。 これらの製作・実験・調査をふまえて、論文をまとめる。論文は、主張点を論理的に説明できるように構成する。例えば製作したものができましたではなく、どういう問題が生じ、どのようにして解決したかを重視する。 4月にテーマ企画発表会を行う。 8－9月に中間発表会を行う。 12月 卒業論文提出。 1月 卒業論文発表会。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
・テーマによっては長時間を要するもの、特別の気候、時間帯を必要とするものもあり、休業中や休日や夜間でも研究を行う。電界強度のように屋外で、特定の時間・中山間地等の特定の場所で測定する場合もある。さらに、回路・装置・計算機などを組み立てることもある。							
卒業研究活動についての留意事項							
・教科書 通信全体、移動通信、光ファイバー通信に関する文献を開始に合わせて指定する。 ・分野が多岐にわたるので、基礎的なものについてはその都度指定する。 ・上記の文献や過年度の卒業論文を取りかかりとして、研究生自ら探索する。 ・テーマによっては長時間を要するもの、特別の気候、時間帯を必要とするものもあり、休業中や休日や夜間でも研究を行う。電界強度のように屋外で、特定の時間・中山間地等の特定の場所で測定する場合もある。さらに、回路・装置・計算機などを組み立てることもある。							
学習到達目標							
・独自のあたらしい発想工夫により問題解決ができる。自らの問題について、論文をまとめ、発表することができる。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	桑原 悟			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
A: 情報とシステム							
目的と研究対象分野							
この授業は、情報文化学部のディプロマポリシーの一つである、『自主的計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること』を実現するための授業の一環である。							
研究対象と研究分野は、受講生各自の卒業研究1, 2のそれらと同一である。							
研究内容							
この授業は、卒業研究1, 2での成果を元に行う卒業研究3, 4と並行して、論文作成の観点から必要な事象に関して学習する。							
学習は自己管理し、卒業論文執筆日誌で報告する。 報告の内容及び実施時間数に関して、担当教員の承認を得る。							
合計120時間の学習を行う。							
成績評価							
論文に必要な要素と配点は、次のとおりです。 ・構成の妥当性及び記述の論理性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25% ・結論の妥当性、有用性、新規性／独創性（学士論文のレベルであること）・・・・25% ・正しい書式、表現、表記、用語使用及び、文章としての完成度・・・・・・・・・・25% ・論文作成に取り組む姿勢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25% ※）これらに加え、情報システム学科の定める基準を満たすことが必要です。							
卒業研究活動についての留意事項							
学習到達目標							
各自の研究成果を（上記要件を満たした）論文としてまとめる。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

8. 卒業論文集の作成	
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】	
成績評価	
卒業論文	
文字で表現された内容の信頼性	40%
新規性	30%
論理性	30%
卒業研究活動についての留意事項	
<p>高木研究室ではこれまで188報の卒業論文を作成しています。 情報関連では80のデータベースを作成しました。 以下に具体例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PostgreSQLによる就職活動向けメール文例集データベースの構築 ・外国人観光者向け英語の温泉データベースの構築に関する研究 ・三国志に登場する人物データベースの構築に関する研究 ・食品の栄養成分データベースの構築に関する研究 ・食用魚介類データベース構築に関する研究 ・新潟県の方言データベースに関する研究 ・新潟県の中小企業データベースに関する研究 ・間違えやすい日本語データベースの構築 ・おいしい野菜と果物の育て方データベースの作成 ・ビジネスマナーのデータベース構築に関する研究 ・慣用句データベースの構築に関する研究 ・自動車ユーザーレビューデータベースの構築 ・新潟の温泉データベースの構築に関する研究 <p>経営関連では103編の論文を作成しました。 以下に具体例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レトロフィットによる新しい価値の創造 ・マーケティングツールとしてのFacebookの可能性 ・女性ファッション雑誌の付録による購買意欲向上に関する研究 ・少子化社会における玩具産業の新ブランドマーケティング戦略 ・ソーシャルメディア時代のコミュニティアイドル ・新潟みなとトンネルと柳都大橋の事業評価に関する研究 ・ホームヘルパーの人材確保に関する研究 ・少額決済取引における電子マネーの利便性と今後の可能性に関する研究 ・新潟県の特性を考慮したテーマパークとアウトレットモールの複合施設の提案 ・女性労働者の労働力率と保育環境に関する研究 ・遺伝子組み替え食品の表示制度に関する研究 ・日本の高級ブランド品市場におけるサブ・ブランド戦略の提案 ・デジタル著作権保護に関する考察 ・介護用ロボット導入による介護労働軽減に関する考察 ・産業廃棄物のリサイクルと循環型社会 <p>卒業研究では卒業論文を作成するため全員に共通して必要な内容を指導します。 卒業論文の内容に関する個別指導は卒業研究とは別の時間に行います。 4年生の夏休みに合宿を行い正確な日本語による序論作成の演習を行います。 情報検索は情報収集の有力な手段ですが利用できる情報には限界があります。 Web情報を卒業論文の論拠として使用する場合は蓋然的な信頼性が認められる情報に限定します。 論文作成にあたり、卒業研究3ではアルバイトの継続が大きな障害になるため4年生の9-11月のアルバイトは中止するか極力減らしてください。</p>	
学習到達目標	
<p>自らの意志と価値観を認識して仮テーマを設定できること。 情報収集のため目的・目標を設定し、体系的に情報を収集し、収集した情報に基づいて考察できること。 自己の独自の視点を正確な日本語で論文に反映できること。 その結果として、情報を使いこなすための知識と、社会環境や人間活動に深くかかわる情報システムの機能と仕組みを習得することを目標とする。</p>	
JABEE	
関連する学習・教育到達目標：F	

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
卒業論文	佐々木 桐子						
分野							
C分野							
目的と研究対象分野							
情報文化学部のディプロマポリシー「情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること」を目指し、身近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、改善する方法を習得する。具体的には、生産、物流、道路交通、病院、銀行業務などのシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、問題解決策を検討する。							
これら一連の研究の成果物として卒業論文を執筆し、研究発表をおこなう。							
研究内容							
卒業研究1：離散系シミュレーション言語の習得。 ① ATMモデルの構築およびその発表。 ② レジモデルの構築およびその発表。 ③ 現実のシステムへの応用およびその発表。							
卒業研究2：離散系シミュレーション言語の習得。 ① 道路交通モデルの構築およびその発表。 ② 現実のシステムへの応用およびその発表。 ③ 各自卒業研究テーマの決定およびその発表。							
卒業研究3：研究対象分野に関する情報収集および研究対象システムの現地調査。 ① 研究対象分野に関する文情報収集およびその発表。 ② 研究対象システムの現地調査、モデル化に必要なデータの収集、およびその成果発表。							
卒業研究4：研究対象システムのシミュレーションモデルの構築、実験、比較・分析。 ① 研究対象システムのシミュレーションモデルを構築。 ② 研究対象システムのシミュレーション実験。 ③ 改善案（代替案）の比較・分析およびその結果の成果発表。							
これら一連の研究の成果物として卒業論文を執筆し、研究発表をおこなう。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
成果物（卒業論文）：50点、発表（卒業論文発表会）：50点により評価する。具体的には成果物（卒業論文）は、体裁、論理構成、実行結果の解釈を重視し、発表（卒業論文発表会）は、時間、構成、質疑への応答の的確性を評価する。							
卒業研究活動についての留意事項							
夏期・冬期休業期間中も継続して研究活動をおこなう。							
学習到達目標							
現実の問題に対して、適切な道具（離散系シミュレーション言語）を適時的確に使い、問題解決プロセスを適用し、結果を正しく解釈し、研究成果を適切に表現できる能力を育成する。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
卒業論文	山下 功						

分野

27 年度以降の入学生は分野を定めない。

目的と研究対象分野

山下研究室では、管理会計と原価計算を中心とした会計学について研究します。

管理会計は、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。なお、主な周辺学問領域として、原価計算、簿記学、経営学、生産管理など挙げられます。

管理会計で最も大切なことは、「会計情報を利用する」ことです。そして、企業の目標とは究極的には利益を獲得することです。授業では、会計情報を利用してより多くの利益を獲得する方法について議論します。

【関連する学位授与方針:自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。】

研究内容

- 卒業論文の構成及び内容について、個別に指導を行います。
- 卒業論文発表会に向けての指導を行います。

【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】

成績評価

卒業論文 70%、卒業論文発表会 20%、データベース登録 5%、卒業論文執筆日誌 5%で評価します。但し、4 項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。

卒業研究活動についての留意事項

山下研究室では、以下のような学生、またはこれから以下のようにになりたい学生を求めています。

- 世の中の様々な現象に深く関心を持っている人。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。
- 世の中の流行に惑わされない人。自分自身の考えを持つことが大切です。
- 自動車・電機・機械などの製造業(物づくり)が日本の産業の中心であると考えている人。情報、金融、その他のサービス業、農業などももちろん重要なのですが、それらの産業は、製造業が築いた確固たる土台の上で成り立っています。そして、管理会計や原価計算の基本は製造業です。
- 管理会計を真剣に学ぼうという意欲のある人。今現在の簿記や会計に関する知識や資格の有無は、選考には影響しません。但し、研究室配属後は勉強してもらいます。

山下研究室に配属が決定した後の留意事項は、以下のとおりです。

- 自習または財務会計の授業でビジネス会計検定試験 3 級の学習を行い、会計学の基本的な知識を修得してください。
- 山下担当の講義科目である、財務会計と管理会計を必ず履修してください。
- やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、事前に連絡をしてください。無断欠席は好ましくありません。授業に毎回出席することが、管理会計に限らず、専門的な知識を身につけることの早道です。

学習到達目標

管理会計について理解し、深く関心を持ち、大学の中だけではなく日常生活全般においても知的好奇心を絶えずはたらかせて、その中から自分自身が疑問に思っている問題点を明らかにし、それを管理会計の論文として表現できるようになることを目標とします。

JABEE

関連する学習・教育到達目標 : F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	石井 忠夫			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
研究分野としては、情報化社会において基盤となる技術や仕組み、情報システムの設計に関わる理論、情報システムの構築、及び論理学などである。							
目的と研究対象分野							
(1) 情報化社会において基盤となる技術や仕組み 現代社会において基盤となる技術や仕組みを調査研究し、その問題点や改善策を考察する。 (2) 情報システムの設計に関わる理論 情報システムの構築に向けた要求分析と設計に関わる理論を修得し、現実世界の具体例に応用する。 (3) 情報システムの構築 情報システム構築のためのプログラミング言語を習得し、現実世界で有用なソフトウェアを実装する。 (4) 論理学 知的活動において規範となる論理学の基礎を修得し、卒業研究の推進に活用する。							
研究内容							
卒業論文では、卒業研究テーマの選択からスタートし、テーマの推進状況及び得られた結果とその評価・考察結果について論文に纏める。							
(1) 卒業論文の執筆内容は以下の通りである。 ① 卒業論文のテーマ選択の経緯と動機 ② 論文の目的と目標 ③ 背景となる対象領域の説明や問題点の指摘とそこに解決策 ④ 卒業研究の推進計画とその進め方 ⑤ 研究テーマの推進に係わる用語や基礎知識の導入 ⑥ 研究内容の紹介 ⑦ 研究内容の評価、隘路となった事柄とその打開策 ⑧ 卒業研究で得られた結果と今後の課題 ⑨ 参考文献リストおよびその他の付録（ソースプログラムリストなど） (2) 執筆の指導としては、次を実施する。 ⑩ 最初に卒業論文の模範例を示す。 ⑪ 最初に目次のアウトラインを作成する。 ⑫ 各章単位に内容をチェック添削し、また、全体の論旨をチェックする。 ⑬ 特に、各自の研究の意義、経緯および成果が正しく述べられているかを指導する。 (3) 本卒業論文の成果として、卒業研究の全貌を正しく記述した研究論文を作成する。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
卒業論文の体裁が40%、記述内容の正確性が20%、独創性が20%、文章能力が20%で評価する。							
卒業研究活動についての留意事項							
・情報コースの人を受け入れる。 ・予備知識は特に必要としないが、基礎科目「論理と数理」を受講していることが望ましい。 ・真剣に取り組める人を歓迎する。 ・プログラムの開発に興味がある人を歓迎する。							
学習到達目標							
自分で新しいテーマ（問題）を認識すると共に、その解決のために論理学やソフトウェア工学などの関連科目を習得し、対象をモデル化して自ら問題の解決を図る能力を養う。さらにその課程の中で自分が取り組んだ内容を的確に纏め、発表する能力を養う。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	小林 満男			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
A分野・C分野							
目的と研究対象分野							
<p>現在、企業は高齢化・少子化の進展により社員の確保・技術継承の問題、規制緩和等による競争の激化など多くの課題に直面しており、特に、地球温暖化と関連して環境問題や自然を含めた大きな視点から経営をとらえる必要に迫られています。そのため企業や国・自治体においては、これらの課題を克服する構想をあたため具体的な解決をもたらすソリューション能力が求められています。そこでは情報や情報システムの開発・利活用がひとつの鍵を握っていると考えられます。</p> <p>卒業研究では、自然科学や社会科学にとどまらず、人文科学も含めた学問を総動員しながら、社会とのかかわりを重視しつつ、経営・組織、情報システムの面から卒研生が選定した研究テーマについて主体的に進めていただきます。そのため、最初にA分野（情報とシステム）とC分野（経営と組織）全員によるリサーチリテラシー（研究方法論や卒業論文の書き方）について基礎的な学習と演習を行った後、夫々の卒研生から研究テーマに関連する先行研究、参考文献について要約報告してもらい、卒研生全員で共有します。</p> <p>これらの作業と併行して個別に論文作成指導を実施します。</p>							
研究内容							
<p>研究テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none">・企業や各種団体における情報及び情報システムの戦略的利活用に関する研究・下記のキーワードに関連する卒研生が希望するテーマの研究 <p>（キーワード）</p> <p>企業戦略、経営組織、人的資源管理、情報及び情報システムの利活用、防災・減災、地域創生研究他</p> <p>[研究内容]</p> <p>（成果物：論文抄録、卒業論文）</p> <p>【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p>							
成績評価							
<p>自主的、継続的に学習できる能力、与えられた制約下で計画的に仕事を進め、まとめる能力、プレゼンテーション能力について、卒業論文（独創性、論理性、計数性、応用力）の内容と発表、ディスカッションの両面から評価する（100%）。</p> <p><フィードバック></p> <p>卒論発表会及び最終回の講義で、学生が執筆した卒業論文について講評する。</p>							
卒業研究活動についての留意事項							
<p>卒業研究では、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、地球的な視点から多面的にものごとを考え、他者と協力して問題解決にあたるができること」をめざすので、研究室として取組む地域活動、夏期合宿（4年生）、懇親会（茶話会）には積極的に参加してください。</p>							
学習到達目標							
<p>自ら問題点を設定し、スケジュールを立て、計画的に情報を集めて考察し、または製作し、自らの見解を加えて論文としてとりまとめ、発表する能力を育成する。</p>							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	上西園 武良			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
B分野							
目的と研究対象分野							
<p>本研究室では、私たちの日常生活の中で「使いづらい」や「快適に使えない」と感じられる「モノやシステム」を取り上げ、人間工学の手法を使って解決策（＝人の特性により合っている）を見出すことを目的とする。</p> <p>研究対象は、自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感がある「身近な製品（家電、家具など）」や「身近な公共物（学校、駅、公園など）」等とする。自分自身の実感のないテーマでは研究に対するモチベーションが低く、困難に遭遇した時に挫折しやすいためである。</p> <p>研究の進め方としては、まず当該対象に関する文献調査を徹底的に行い、既存研究でどこまでなされているかを明確にする。この結果に立脚して各自の仮説を設定する。さらに、設定した仮説の検証に当たっては、実験（または調査）に基づいて行う。従って、本研究室では実験（主に被験者実験）主体の研究となる。</p> <p>研究（課題解決）を進めるにあたってはQC（品質管理）手法が有効であるので、本研究室ではQC手法の習得と実践を行う。</p> <p>【対応するディプロマポリシー】</p> <ul style="list-style-type: none">健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。仕事の仕組みをシステムの考え、データを重視した論理的な判断ができること。自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。							
研究内容							
<p>（1）研究の流れ</p> <p>卒業研究1～4を通じての全体の流れは以下のようである。</p> <p>①研究フローの学習</p> <p>②研究テーマの設定</p> <p>③文献調査によるテーマ遂行可能性の判断</p> <p>④仮説の設定</p> <p>⑤予備実験による仮説の事前検証</p> <p>⑥本実験による仮説の検証</p> <p>⑦論文の執筆、発表資料の作成</p> <p>（2）卒業研究1：研究フローの学習</p> <ul style="list-style-type: none">与えられたテーマについて一通りの研究フローを実施し、研究の流れを学習する <p>（3）卒業研究2：研究手法の獲得、研究着手</p> <ul style="list-style-type: none">研究テーマの設定： 自分自身で「使いづらい」や「快適に使えない」などの実感があるテーマを見出す。文献調査： 文献調査によって当該テーマについての過去の研究例を徹底的に調査し、当該研究テーマの遂行可能性を判断する。「既に解決済」や「研究の余地無し」の場合は研究テーマを再設定する。仮説の設定： 文献調査の結果に立脚してオリジナルな仮説を設定する。予備実験による仮説の事前検証： 少人数（5～10名程度）の被験者実験により仮説の事前検証を行う。仮説を否定する実験結果となった場合は、実験方法の見直しあるいは仮説の再設定を行う。 <p>（4）卒業研究3：研究遂行</p> <ul style="list-style-type: none">本実験による仮説の検証： 20～30名の被験者実験を行い、仮説検証の精度を向上させる。 <p>（5）卒業研究4：研究成果のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none">卒業論文の作成、発表							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<p>自主的に研究を推進できる能力、与えられた制約下で計画的に研究を実施できる能力、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力、および、卒業論文の内容、卒業発表の内容を総合して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none">卒業研究は、①日常の研究態度と研究への取り組み姿勢（60点）、②報告・発表の出来具合（40点）により評価する。フィードバック：学生各自と面談を実施し必要なフィードバックを行う							
卒業研究活動についての留意事項							
<ul style="list-style-type: none">当研究室を志望する場合、事前の研究室訪問を必須条件とする。採用基準は、第1基準「志望動機の強さ」及び第2基準「人間工学1の成績」とする。研究室活動として、本来の研究遂行と並行して「社会人としてのマナーの育成」を重視する。授業は定時（9：00）に開始する。遅刻は「社会人としてのマナー」として失格であるので厳禁とする。病気等で授業に出席できない場合は、事前に欠席理由をメール連絡することを必須とする。余程の理由（例えば、メールもできないほどの重病など）がない限り、欠席の事後連絡は「社会人としてのマナー」として失格である。授業欠席の場合は、欠席分の補習を別の日に実施する。被験者実験は他の人の協力なしには行えない。各学年の研究室生（10名程度）同士だけで相互に被験者となるだけでは人数が不足であるので、他学年の研究室生にも被験者の役割を担ってもらう。このため、他学年同士の交流を重視する。卒業研究もひとつの課題解決である。課題解決のために有効な手段としてQC手法を用いる。このため、全員が3年前期でQC3級の資格取得を目指す。”							
学習到達目標							
<ul style="list-style-type: none">課題発掘能力の獲得：自らテーマを設定し、「その研究を行う意義」と「研究の位置付け」を明確にすることができる。課題解決能力の獲得：自らの課題解決に当たり、「必要な情報入手」や「適切な手法（実験方法、調査方法など）の入手・実行」を通じて、問題解決が行える。コミュニケーション能力の獲得：わかりやすい資料で、適切なプレゼンテーションが行える。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	西山 茂			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
A 分野							
目的と研究対象分野							
<p>① 卒業研究の意義は研究のプロセス（テーマの設定から成果の発表まで）を体得することにある。このプロセスは、研究限らず広くビジネスの一般でも極めて重要である。</p> <p>② コンピュータを使ったシステムをソフトウェアシステムと呼ぶが、現代においてソフトウェアシステムビジネス及び個人生活の隅々にまでいきわたっている。</p> <p>③ ソフトウェアシステムは、人間活動の一部をコンピュータに肩代わりさせるものであるため、人間の活動を正確に理解せずにソフトウェアシステムを作っても本来望んだようには動作しない。また、人間とコンピュータは異なった原理で動作（行動）しているため、人間の活動に何の変更も加えずにコンピュータに肩代わりさせても、やはり本来望んだようには動作しない。そこで、本研究室の卒業研究の主テーマは、次のように定める。 （ア）人間活動の理解。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。このため、本研究室卒業研究では、主としてビジネス活動に制約することとする。 （イ）人間活動とソフトウェアシステムの最適な関係に関する研究”である。ただし、単に人間活動といった場合は、きわめて広範囲の活動を指すことになる。</p> <p>④ この枠組みの中で、各自研究テーマを設定し、問題を分析し、その解決案を提案し、その有効性を検証するという一連のプロセスを実行する。ただし、学生が独自の良いテーマを提案した場合、学生と西山の協議によりこれをテーマとすることも妨げない。</p> <p>⑤ 卒業研究の最初に本研究室の研究の共通基盤となる“人間活動とソフトウェアシステムの係わり”をテーマに、人間活動にとってソフトウェアシステムとは何か、課題は何かを学ぶ。併せて、問題分析法、検討結果のまとめ方についても学ぶ。</p> <p>⑥ 卒業研究のテーマは卒業研究の大枠の中で自分のアイディアや問題意識に基づいて選定する。卒業研究は、適切な課題設定、仮説設定・検証、各種手法（技法）を用いた問題分析・評価、整理によって実施する。</p> <p>⑦ 研究成果は通常は「研究論文」にまとめる。新規事業的発想であれば「新規事業開発の事業計画書」にまとめる。</p> <p>本授業は、以下のディプロマポリシーに関連する。</p> <p><情報システム学について理解し、情報システム領域の基本的な専門技術を修得していること。></p> <p><自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力があること。></p> <p><仕事の仕組みをシステムの考え、データを重視した論理的な判断ができること。></p>							
研究内容							
卒業研究 1、卒業研究 2、卒業研究 3 における調査、検討、分析結果を整理し、A4 で 30 ページ程度の論文にまとめる。また、卒業論文の内容を報告する。さらに、卒業論文を学内データベースに登録する。							
また、卒業論文執筆に 120 時間以上かけ、それを示す卒業論文執筆日誌を記録すること。							
成績評価							
1) 卒業論文或いは新規事業計画（成果物）の評価要素（以下全体 100％） ・ 問題設定の具体性：解決すべき問題が何であるかが明確に定義されていること。 ・ 論理の一貫性：文章／表現が明快かつ構造的であること。 ・ 新規性／独創性：自分の考え方／アイディア／事業コンセプトなどが提示できていること。 ・ 有効性：調査アンケートや実験データの分析などにより、説得力をもって客観的に有効性や事業性が示されていること。 2) 卒業論文発表の評価要素： ・ プレゼンテーションの構成スライドの表現法、口頭発表の明瞭性、質問への応答的確性など（100％） 3) その他 ・ 執筆に 120 時間以上を要した記録を示す研究論文執筆日誌があること。 <フィードバック法> ・ 卒業論文の内容、記述法、についで担当教員と議論し、担当教員は論文に対しえ指示・指導する。							
卒業研究活動についての留意事項							
1) 卒業研究 1～3 の期間は、卒業後のキャリア形成の第一歩を決める大事な時期でもある。そこで卒業研究では「研究会（授業）」で演習を行いながら、各自の「卒業研究遂行・卒業論文完成」と「進路決定・就職達成」を並行して指導する。これらの何れも、各人が自主的に自分の責任において行い、目標達成まで努力する。 2) 卒業研究 3 の履修生と卒業研究 1 の履修生が交流する機会を設け、テーマ設定や研究の進め方に関して意見交換を行い、相互に刺激を受けることができるようにする。							
学習到達目標							
① 自ら情報を収集・整理し、問題を設定する。②スケジュールを立て、仮説を立てて問題解決にあたる。③解決法を論理的に考察するか、あるいは製作・実験等を行った結果に自らの見解を加えて解決法を案出する。④これらの解決法を整理された文章に記述する（論文、新規事業企画）。⑤論文、新規事業計画を発表する。⑥自己及び他者の発表に対して有効にコミュニケーションができる。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	中田 豊久			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
D 分野							
目的と研究対象分野							
人々の様々な活動を支援するためのコンピュータシステム、またはプログラムについて研究する。まず自ら課題を見つけ、その課題を克服するためのシステムを設計、構築する。そして構築したシステムが本当に課題を克服できているかを評価する。自主的、計画的に自ら情報を集め、考察することが求められる。また、自ら行ったことを他者に分かりやすく説明するために、論文を記述して発表することを学ぶ。							
研究内容							
研究内容は、履修生と話し合いの中で決定していく。以下に示す内容は、その一例である。							
卒業研究 1: プログラミング実習							
・プログラミング実習、プログラミング言語の選定は、実習内で行う。							
・研究テーマの検討を行う。							
卒業研究 2: 研究テーマの決定							
・プログラミング実習、プログラミング言語の選定は、実習内で行う。							
・卒研テーマを検討し、決定をする。							
卒業研究 3: それぞれのテーマに従って研究の実施							
・研究進捗の報告会を定期的に行う。							
卒業研究 4, 卒業論文: それぞれのテーマに従って研究の実施							
・研究進捗の報告会を定期的に行う。							
・卒業論文を作成する。							
【毎回予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
卒業研究 1: プログラミング実習 80%、卒研進捗 20%の割合で評価する。							
卒業研究 2: プログラミング実習 80%、卒研進捗 20%の割合で評価する。							
卒業研究 3: 卒研進捗の報告会 100%の割合で評価する。							
卒業研究 4: 卒業論文: 研究進捗の報告会 100%の割合で評価する。							
卒研の内容の変更に従って、履修者の同意のもとで評価基準を変更することがある。							
卒業研究活動についての留意事項							
＜受講に当たっての留意事項＞							
情報処理演習 C2 程度のプログラミング技術を持っていることが必要である。							
＜研究室配属の学生選択基準＞							
研究室配属の説明会で提示する。以下に 2015 年の選択基準を例として示す。							
情報論理の (1)履修状況、(2)出席状況、(3)成績、(4)研究室訪問での内容、(5)志願書の志願理由、を基準に決定する。それぞれの括弧内の数字は、基準として優先する順位である。							
学習到達目標							
・社会や人に対する課題を発見し、その課題を克服するシステムを考案する。							
（卒研 1, 2: 研究テーマの検討）							
・プログラミング技術の基礎を身に付ける。							
（卒研 1, 2: プログラミング実習）							
・システム構築に対して、自ら必要な技術を調査、習得することを学ぶ。							
（卒研 1, 2, 3, 4: 卒研進捗）							
・構築したシステムの客観的な評価を実施することを学ぶ。							
（卒研 4: 卒研進捗）							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標: F							

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	藤瀬 武彦			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
経営コース（B分野：人間と社会）							
目的と研究対象分野							
本研究室では主に健康スポーツ科学関連の分野についての卒業論文を作成する。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体力づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる医療システムや道路交通法などの社会的な問題についての研究にまで及ぶ。							
研究内容							
卒業論文のテーマに関しては、各学生の興味を最大限尊重するつもりである。以下に本研究室の過去の卒業論文などから主なキーワードを示したので参考にしてもらいたい。							
・身体関連： 肥満度（体脂肪率、BMI、ウエスト・ヒップ比）、痩せ願望とボディイメージ等							
・体力関連： 1RM（最大筋力）、筋持久力、VO2max（全身持久力）、エネルギー消費量、競技力等							
・健康関連： 生活習慣病、運動不足、食生活、喫煙、性行動とAIDS、テクノストレス等							
・社会関連： オリンピック、少子高齢化、医療と介護、医療過誤と情報公開、道路交通法等							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
文献考証をしっかりと行っているか、自分で収集したデータを用いているか、研究目的と結論が適切か、論文の体裁が整っているか、などについて総合的に判断して評価する。							
卒業研究活動についての留意事項							
本研究室では、原則として各学生が必要なデータを実験やアンケート調査により収集し、統計的手法を用いて分析した結果を用いて卒業論文を執筆することが求められる。従って、データ収集や執筆に対して最後まで諦めないで全力で取り組んでももらいたい。							
学習到達目標							
F：文献考証等をしっかりと行い、自己のオリジナルデータを収集し、研究として意義のあるものを追求する。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	内田 亨			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
C分野・経営コース							
目的と研究対象分野							
<p>本研究室では、卒業研究を通して、経営の理論の習得および社会人として通じるような実践的な人材を育成します。また、卒業論文では、問題設定が最も重要となります。教員は、「つまらない仮説」の検証や当然の結果が出るようなテーマを好みません。誰も気づいていないテーマに、ぜひ、挑戦してみてください。</p> <p>研究対象分野は、営利（企業）・非営利（医療・福祉施設）にかかわらず主に組織体の研究をします。卒業研究のテーマは何でも構いません。教員および過去の卒研生の研究テーマのタイトル・キーワードには、次のようなものがあります（コーポレート・ガバナンス、人間的経営、サケ・ブリ養殖、リーダーシップ、起業家、CSR、フランスの大学病院、大学教員の自己開示、ガソリンスタンド、ソーシャル・キャピタル、感情労働、・・・）。こうしたことを学ぶことによって「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決に当たることができる」人物像を目指す。</p>							
研究内容							
<p>1. 卒業研究1（3年前期）</p> <p>(1) 経営学関連の良書および研究方法に関する図書を章ごとに担当者を決め、要約と考察について発表してもらいます。</p> <p>(2) 地域貢献活動に応募し、採択の場合実践してもらいます。</p> <p>(3) 8月から9月までの間、希望者には、サブゼミとして業界・企業研究を行います。場合によっては、都内の大学と合同ゼミ合宿をする可能性もあります。</p> <p>(4) グループで笹山縄文文化の地域貢献に参加してもらいます。</p> <p>2. 卒業研究2（3年後期）</p> <p>(1) グループで笹山縄文文化の地域貢献に参加してもらいます。</p> <p>(2) 研究方法に関する図書の輪読および講義によって、その理解を深めていきます。</p> <p>(3) 卒業論文の研究計画書を作成してもらいます。</p> <p>(4) 5大学合同ゼミ発表会に参加してもらいます（希望者）。</p> <p>(5) 3年生の指導として、サブゼミの運営をしてもらいます。</p> <p>3. 卒業研究3（4年前期）</p> <p>(1) 卒業論文の形式・内容について指導をしていきます。</p> <p>(2) 担当者を決め、学会論文を輪読します。</p> <p>(3) 地域貢献活動に参加してもらいます。</p> <p>4. 卒業研究4（4年後期）</p> <p>(1) 担当者を決め、学会論文を輪読します。</p> <p>(2) 卒業論文の中間発表をしてもらいます。</p> <p>5. 卒業論文</p> <p>(1) 30ページ以上書いてもらいます。</p> <p>(2) 卒業論文の発表会を行います。</p> <p>(3) 卒業論文のデータ登録をもらいます。</p> <p>【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p>							
成績評価							
<p>[卒業研究1, 2, 3, 4] ①要約と考察の出来栄（40%）、②ディスカッションへの参加度（40%）、③プロジェクト参加度（20%地域貢献活動等）</p> <p>①に関しては、添削して返却し、修正版を再提出してもらいます（フィードバック）。③に関しては報告書を作成してもらい、添削して返却し、修正版を再提出してもらいます（フィードバック）。</p> <p>[卒業論文] ①独創性（40%）、②論理性（30%）、③形式・方法（30%）。</p>							
卒業研究活動についての留意事項							
<p>(1) 「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という強い向上心と信念を持った学生を歓迎します。</p> <p>(2) ゼミのメーリングリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。</p> <p>(3) 井の中の蛙にならないように、インターゼミナールをしてきますので、積極的に参加してください。</p> <p>(4) 書くことが多くなりますので、文章力をつけるよう努力してください。</p> <p>(5) ゼミ生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。</p> <p>(6) 卒業研究を通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。</p> <p>(7) 後輩指導もしてもらいます。</p> <p>(8) 大学院進学を希望する学生も歓迎します。</p> <p>(9) 個別相談をするときには、A4用紙1枚程度のメモを書いてきてください。</p>							
学習到達目標							
問題発見能力の醸成と自律的、計画的な論文作成を行うことができる。また、洞察力・考察力を育成する。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	白井 健二			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
B 分野							
目的と研究対象分野							
研究目的—金融資産の定量的評価, シミュレーションによるシステム評価の研究							
研究対象分野— 本研究室では, 金融資産の定量的評価をするために, 欧米諸国で活用されている Discount Cash Flow (DCF 法) を学習することにより企業の理論株価を算定する。あるいは, オプション評価理論の基礎となるブラック・ショールズの方程式を学習し, オプション価格を算出する。また, (株) NTT データ数理システムが提供する S ⁴ シミュレーションソフトウェアを活用したシミュレーションモデルの構築およびシステム評価を実施する。仕事の仕組みを系統的に考え, データを重視した論理的な判断ができること。本研究室を志望する場合は, モデリング数学, コーポレートファイナンスを受講することが望ましい。							
研究内容							
卒業論文: DCF 法による企業価値評価, オプション評価理論によるオプション価格の算定およびシミュレーションを活用したシステム評価を主たる研究内容とする。							
卒業論文は, 卒業研究3の継続研究として, 次の3分野についての研究を用意している。							
1. Discount Cash Flow (DCF 法) を活用した企業価値評価の研究 卒業研究2で事例企業をもとに理論株価を算出したことで, 卒業研究の対象とする企業に対して DCF 法を実際に使ってみる。最終的に理論株価を算出した結果をまとめて卒業論文にまとめる。							
2. オプション価格決定理論の研究 卒業研究2で修得したオプション価格を決定する理論を基に, ブラック・ショールズの方程式を使って, 研究対象とする企業のオプション価格を算出する。ここでは, ヨーロピアン・オプション価格の算出について研究をまとめて卒業論文とする。							
3. シミュレーションモデル作成および評価の研究 近年, システムのシミュレーションを積極的に活用されている。卒業後の就職を考えて, 定量的に物事を進めることが重要である。S ⁴ シミュレーションモデルを活用して, 興味あるシステムのシミュレーションモデルの構築およびシステム評価の研究を行う。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<成績評価> (1) 卒業論文に沿ったテーマでレポート提出に80%。 (2) 作成したレポートによるプレゼンテーションに20%。 課題に対するフィードバックの方法 卒論作成の進捗をレビューしながら卒論完成までの指導を実施する。							
卒業研究活動についての留意事項							
研究活動の発表を逐次実施する。							
学習到達目標							
金融工学あるいはシミュレーションシステムの理解と修得を具体的な事例を基に研究する。各自が事例を選定し, 卒業論文の作成を通じて論理的思考能力を身につける。また, 定量的評価の手法を修得する。 (関連する学習・教育到達目標:F)							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標:F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
卒業論文	石川 洋			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
A 分野・D 分野							
目的と研究対象分野							
情報技術者にとって必須である、ソフトウェア工学またはコンピュータ及びネットワーク技術に関連した分野から各自が興味のあるテーマを設定し、研究、開発、環境整備などを行う。その成果を論文としてまとめ、発表する。研究過程で必要になる情報、技術、環境については輪講、実習、自主的な調査などで習得し、レジュメを作成して発表する。 研究を通して、問題設定、問題解決、知識共有、知識伝達などの能力を養い、自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する。							
研究対象分野							
A 分野（情報とシステム）							
D 分野（コンピュータと通信）							
研究内容							
限定はしないが、以下のようなキーワードに関連するテーマ設定を想定している。 A 分野（情報とシステム） ・ソフトウェア工学関連（Java、開発環境、オブジェクト指向、リファクタリングなど） ・形式仕様記述関連（モデルチェッキングツールによる検証作業など） D 分野（コンピュータと通信） ・コンピュータ関連（各種アプリケーションの設計、実装、評価など） ・ネットワーク関連（サーバ設定、ネットワークプログラミング（サーバ・クライアント、サーバサイドなど））							
いずれの分野においても、要求定義、設計のプロセスを経て実装を行い、さらにテスト、評価を実施することが望ましい。							
卒業論文の執筆は、卒業研究3、卒業研究4の時間だけでなく、自主的に作業する時間を利用して行う。そのため、自主的に作業してきた履歴は卒業論文執筆日誌に記録しておく必要がある。120時間以上の作業時間が必要である。卒業論文は調査、設計、実装、テスト、評価の過程や結果をわかりやすくまとめ、指定された期間中に提出する。発表会では限られた時間で卒業論文の内容をわかりやすく紹介する。発表終了後、卒業論文をデータベースに登録し、卒業論文執筆日誌を提出する。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
・独創性（20%）、論理性（20%）、計数性（10%）、応用力（20%）、発表力（20%）、その他（10%）で評価する。 ・卒業論文の成績は、論文提出と発表に加えて、卒論DB登録と卒業論文執筆日誌（120時間以上）の提出がないと与えられない。							
卒業研究活動についての留意事項							
・ICT系の資格取得（取得済みの場合はさらに上位資格）をめざす意欲的な人を歓迎する。 ・欠席する際は必ず事前に連絡すること。欠席した回は補講を行う。							
学習到達目標							
・自ら問題を設定し計画を立てることができる。 ・情報を集めて考察または制作することができる。 ・自らの見解を加えて記述し発表することができる。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	宇田 隆幸			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
社会科学系データの分析と知識発見（A・B・D分野）							
目的と研究対象分野							
<p>卒業研究では、各種データを取り扱う研究を行なう。適宜、コンピュータを利用する。キーワードとなる専門用語は、自然言語処理、人工知能、データベース、データマイニング、テキストマイニング、Webマイニングなどである。主に社会科学データを取扱い、人間社会に有用となる規則の発見やその応用を行う。たとえば、SNSからの話題を抽出、アンケートの設計や分析、近隣情報の収集と提供（観光、インフラの不具合、迷子ペットの情報統合システムなど）に関する研究を実施する。なお、テーマの内容によってはシステム開発が必要になる場合もある。学生は、これらに関連する分野から、各自の興味対象を選択して、卒業研究テーマを設定して、独自の発想や工夫を取り入れて研究・開発を行ない、成果を卒業論文としてまとめる。</p>							
<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究1では、卒業研究を行う上で必要な知識の取得や学習を行い、卒業研究のテーマを決定する。 卒業研究2では、各自で決定した卒業研究テーマについて、調査や制作および発表を行う。 卒業研究3では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作および発表を行う。 卒業研究4では、各自の卒業研究テーマに関する調査と制作を行い、研究成果をまとめて発表する。 卒業論文では、各自の卒業研究テーマに関する成果をまとめて論文として作成し発表する。 							
研究内容							
<p>卒業研究1：卒業研究に必要な基礎知識の習得と、卒業研究テーマの決定を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> プレゼン手法や論文の書き方および研究の進め方の学習 プログラミング・自然言語処理・データマイニング等の分野について基礎知識の学習 過去の研究テーマの紹介 各自が興味を持った分野に関する調査と発表 研究テーマの決定と計画書の作成（プレゼンおよびレポート提出） 							
<p>卒業研究2：各自決定した卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換 研究テーマに関する調査や制作 大学生にむけて研究テーマに関する展示を行う 4年生の大学祭における展示・発表を見る（レポート提出） 中間発表会（プレゼンおよびレポート提出） 4年生の卒業研究発表会に参加（質問、レポート提出） 就職に関する情報交換 就職について4年生と懇談会 							
<p>卒業研究3：各自の卒業研究テーマに関する調査と発表および制作と、就職や進学に関する情報交換を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 春休みの研究成果と就活状況の報告 研究テーマに関する調査や制作 卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換 就職に関する情報交換 中間発表会（プレゼンおよびレポート提出） 							
<p>卒業研究4：卒業研究テーマに関する調査と発表及び制作と、研究成果のまとめを行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の進捗状況の報告と内容に関する意見交換 研究テーマに関する調査や制作 大学祭における成果の展示・発表 研究室における成果発表会（成果報告の最終締切） 卒業論文の執筆と添削 卒業論文の発表の練習と本番発表 卒業論文データベースへの登録 							
<p>卒業論文：卒業研究の調査と発表および制作を行ないながら、成果をまとめて論文として作成し、発表を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ決定の計画書や、中間報告、成果報告の内容をまとめていく 大学祭が卒業研究の成果作成の締切となるので、それ以降は論文を完成させる 論文の提出、発表会での発表、データベース登録の3つが単位取得の条件となる 							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<p>卒業研究1：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。 卒業研究2：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。 卒業研究3：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。 卒業研究4：参加態度(40%)、報告・発表(30%)、提出レポート(30%)により評価。 卒業論文：論文(60%)発表(40%)により評価 （論文：新規性、独創性、有用性、完成度による。発表：内容、わかりやすさ、態度、質疑応答的確さによる）</p>							
卒業研究活動についての留意事項							
<ul style="list-style-type: none"> プログラミングに関する卒業研究を行なう場合は、プログラミングに関する演習や講義を受講しておくことが望ましい。 卒業研究の配属時に希望者が定員を超えた場合の選考は、(1)志願書の内容、(2)研究室訪問時の面接内容、(3)担当教員の授業の履修状況(4)情報処理演習の履修状況の順で判断する。 							
学習到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 自ら問題を設定し、計画を立て、情報を収集して考察・制作することができる。 問題について、自らの見解を加えて論文として取りまとめ、発表することができるようになる。 							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	4年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	藤田 美幸			【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
分野							
C分野：経営と組織							
目的と研究対象分野							
<p>本研究室では、企業や組織の商品（サービス）の企画を学びます。主に産学共同研究を行ないます。企業や組織が成長するに欠かせない企画力を身につけることを目標としています。</p> <p>卒業研究1,2,3,4の成果として卒業論文にまとめます。</p> <p>なお、この科目は「自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表する力を養う」ための科目のひとつになります。</p>							
研究内容							
卒業論文の作成を通し、自ら考える力と行動する力を身につけます。							
この力は、将来、経験したことがない大きな問題に直面したときに、問題解決のために、自ら考え、自ら行動することができるようになるものです。							
具体的には、以下の7つに取り組みます。							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 目標規定文の主張点 2. 情報や経験に基づき問題点を明らかにする。 3. 問題解決のための仮説を自分で作る 4. 関連データを利用して仮説の妥当性を論理的に説明する。 5. 正確な日本語で主張点を説明する 6. 「自己の主張点を論理的に自分の文章で説明する」 7. 自ら考えることができる意義 							
<p><卒業論文></p> <ul style="list-style-type: none"> ・30 ページ以上書いてもらいます。 ・卒業論文の製本と卒業論文登録データの作成をします。 ・卒業論文発表会原稿の作成をします。 ・文章の修正個所のまとめをします。 ・論理的文章作成のための個人別資料作成をします。 ・1月に卒業論文発表会を行います。 							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
成績評価							
<p>卒業論文は、3年までに学んだ知識（100単位）の集大成です。</p> <p>以下の観点から評価します（100点）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 独自性（着眼点、改善点、提案に独創的なものがあるか） 2. 論理性（論理に矛盾はないか、体系的にまとめられているか） 3. 計数性（裏づけデータは事実と合致するか、その精度と収集方法は適切か） 4. 応用力（授業で修得した知識など活用されているか） 5. 発表力（適切な内容で聞き手にわかりやすいものであったか） 							
卒業研究活動についての留意事項							
<p><休業期間中も継続して研究活動をおこなうことが求められます。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウド上のグループワークの中で情報交換を行います。 ・ゼミ生は、積極的にディスカッションし参画することが求められます。 ・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡してください。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないために卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。 ・卒業論文の提出、卒業論文発表会での発表、卒業論文のDB登録の全てを行わないと単位を与えません。 ・卒業研究の授業に就職活動などで欠席の場合は、事前にメールで連絡をすること。必ず別の日にメールでアポイントを取り指導を受けること。これを行わないために卒業論文が完成しなくても責任は持ちません。 							
学習到達目標							
卒業論文を通し、一人で調査・分析・考察をし、企画力、アントレプレナーシップ力を身につけることを目標とします。							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研(後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門	必修	4年
卒業論文	小宮山 智志						

分野

人間と社会

目的と研究対象分野

人々の行動や考え方を“人と人との関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。

「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（＝研究する）能力を身につけることです。人々について新しい情報を創り出すには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。

研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。

*他にも小宮山のホームページ（<http://www.nuis.ac.jp/~komiya/>）に研究例が紹介されています。

研究内容

上記の目的と研究対象に関して、卒業研究1～3の内容を参考に各自が執筆します。

ここでは、良い論文の条件を記しておきたいと思います。

なおここで紹介する“良い論文の条件”は、私のオリジナルではありません。私の卒業論文の指導をしてくださった宮野勝先生の基準です。この基準は、私の卒業論文を先生がコメントしてくださった「小宮山論文に対するコメント」（『中央社会学』 第三号 P.86 1994年）に掲載されています。まずは論文評価基準『宮野三原則』を示します。

第1基準. 従来の研究成果を踏まえた上で、独自の説が提示されている。

第2基準. 自分の説の適切性を示すために十分な根拠を示している。

第3基準. 問題設定が明瞭で、かつ学問または社会的意義がある。

情報はものと違って、使用してもなくなりません。そのため同じものをコピーしても価値はありません。したがってオリジナルな新しいものを作り出す必要があります。そのためにはいままでどのようなものが作られてきたのかを調べ、自分の研究の新しさを示さなければなりません。新しくても、間違っている、使い物になりません。正しいことを根拠をもって示す必要があります。そして新しくて、正しくても、まったく役に立たないものでは困ります。どのような意義があるのかを示す必要があります。

論文とは“研究”によって得られた知見を論理的に記した文章です。一部の人がよく知っていることを多くの人に伝えることは意義のある場合がありますがそれは研究ではありません（ジャーナリズム）。自分の興味のあることを調べて、わかりやすくまとめたというのはいりっぱなテキストになる場合がありますが、やはりそれは論文ではありません。簡単なことではありませんが、3条件を満たした研究を論文にまとめましょう。

【事前・事後学習】毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を行なってもらいます。

成績評価

卒業論文（60%）と卒業研究発表会（40%）で評価します。毎回、共有フォルダ、グループワークをとおしてフィードバックします。

卒業研究活動についての留意事項

*詳細は小宮山のホームページ（<http://www.nuis.ac.jp/~komiya/>）で公開します。志望理由の書き方が記してありますので、小宮山研究室を希望する方は、必ず参照してください。

*2年生の春休みにサブゼミ（1日程度）を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせてます。

*2年次・3年次ともに先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。

*無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。

学習到達目標

1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。

2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。

3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。

JABEE

関連する学習・教育到達目標：F

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研（後期）	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
	【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			×	×	×	
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	専門	必修	4年
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	専門	必修	4年
卒業論文	藤田 晴啓					【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門
分野							
A B							
目的と研究対象分野							
卒業論文の目的は、大学での勉学で最大のプロジェクトとなる卒業研究を、科学的に、理論だてて行うこと。人生の中で、恐らく最初で最後の研究をしっかりと内容に仕上げます。							
研究対象分野は何でも構いません。ただし、レポートとは決定的に異なるのは、先行研究といって、既に同様の研究がなされ、図書や論文にて発表されていること。自分の卒業論文の手本となる、研究を自らみつけることが重要となります。							
「興味をもって」研究室の活動に取り組む自発の姿勢があれば、社会人の基礎となる経験を積むことができます。							
研究内容							
卒業論文の題材は、先ず自分の興味のある事象、科目、トピックなんでも構いません。図書検索で、先行研究にふさわしいものを見つけだすのが、ポイントです。							
卒業論文のテーマがきまったら、研究計画を作成し、研究の背景（序章）、目的、方法等を明確にしていきます。							
研究は、論文等資料を収集して行う、研究と、調査や試験を実施して行う研究とに分けられますが、どちらでも構いません。							
毎回提出する新たに書き加えた部分をもとに教員との面談指導を行います。論文の全体を再度チェックし、必要な修正を行います。「結果」を執筆したあとに、「考察」で論理をさらに発展させる指導を行い、論文全体の「まとめ」を作成します。本文以外の論文表紙、目次、図表リスト、参考文献、謝辞等を加え、卒業研究論文を完成させます。また、卒業研究発表会リハーサルを繰り返します。							
成績評価							
提出論文を審査します。							
卒業研究活動についての留意事項							
卒業論文では教員と対面で論文進捗状況の確認・指導を行います。卒研生には準社会人として接します。責任と自覚をもって卒研に参加してください。							
学習到達目標							
1 科学的で論理的な論文を執筆する 2 仮説を立て、可能であれば統計的に解析する 3 卒業論文を執筆することにより科学的な考え方を身につける							
JABEE							
関連する学習・教育到達目標：F							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410017	X-13/31-B-3-410017	4	ゼミ・卒研 (後期)	【1年次生】国際学部国際文化学科			
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科			
卒業論文	未定			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【1年次生】経営情報学部経営学科			
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科			
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース			
【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース							
分野							
目的と研究対象分野							
研究内容							
成績評価							
卒業研究活動についての留意事項							
学習到達目標							
JABEE							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習